

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0690800347		
法人名	社会福祉法人 友和会		
事業所名	グループホームサン・シティ		
所在地	山形県酒田市曙町2丁目28-5		
自己評価作成日	平成 29年 11月 15日	開設年月日	平成 27年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 29年 12月 8日	評価結果決定日	平成 30年 1月 4日

# (ユニット名 “-” )

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせるように支援しています。家族と一緒に利用者を支え、利用者職員は、互いに相手を尊重する気持ちを持ち、笑顔の多い施設であるように努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福祉の拠点として特別養護老人ホームやケアセンターなど法人の各種福祉施設が並ぶ中にあり、利用者には自分の家と同じように穏やかに楽しみながら生活を送ってもらいたいと願い、その時々状況に応じた柔軟な対応で家族からも信頼を得ています。近くのコミュニティセンターで行われる夏祭りに参加したり、文化祭では利用者で作った作品の展示も行い、日常的にスーパーなどに買い物に出かけてふれ合う機会も多く、地域との交流が広がり理解者も増えている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	友和会の理念、グループホームの運営理念、職員行動指針をホールに掲示し、訪問者に公表するとともに、職員が常に確認しながら行動出来るようにしている。	日々の関わりについて職員会議等で確認しながら迷いがあれば基本理念に立ち返るようにしている。管理者と職員は利用者と向き合ってそれぞれの生活や特性を理解し、敬う気持ちを持って支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所に買い物に行ったり、地域の夏祭りに参加している。	地元自治会と交流を図り、近くのコミュニティセンターで行われる夏祭りや文化祭に地域の一員として参加し、利用者の作品も展示している。散歩や買い物で挨拶を交わしたり人とふれあい、福祉の拠点として地域とのつながりが広がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	長時間利用のデイサービスを実施し、家族を支援している。また、ボランティアや施設見学者、介護相談者を受け入れ、認知症介護についてアドバイスを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や介護相談員の話し、外部評価についての報告を行っている。避難訓練については地域との連携が出来るように話し合っている。	自治会長や市担当者・民生委員と家族代表も参加し、活動状況や利用者の生活の様子などを伝えて出席者からの気づきをもらい、情報交換を通じて地域の理解を得ながらサービスの向上を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただき、運営等についてアドバイスを頂いている。	介護の実情やサービスの取り組みについては運営推進会議で報告しており、あらためて出向いてまでは行われていないが、状況や必要に応じて相談できる体制を整えており、市担当者と双方向的関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関は夜間20:00～7:00までの施錠のみで過ごしている。各個室にはセンサー付きのベッドがあり、利用者が居室で休まれる時に作動させることで、安全を確保している。また、利用者の話を職員が良く聞くことで、利用者の精神的な安定に努めている。	利用者の思いや意向を確認しながら優先順位をつけて対応し、安全を確保して抑圧感を与えないように支援している。言葉づかいについても研修等を通じてそれぞれが自覚し、当事者意識を持って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修で、酒田市介護保険課の職員より講師になっていただき、寸劇を交えた研修を行っていただいた。また、職員会議にて、言葉の虐待についても注意喚起を行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H29年度より始まった総合事情について研修会に参加し学んだ。包括支援センターや居宅支援事業所と連携し、必要時相談できる環境を作っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には施設を見学していただき、家族が納得できるように十分な時間を設け説明している。また、退所時には家族の希望に沿った支援が出来るように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見については、介護相談員の話を参考にさせていただいている。また、ご家族については、来所時に最近の状況を報告しながら、ご家族の考えも聞き取っている。	利用者の意向と家族からの意見や介護相談員を介しての話も参考にしながら、職員間で検討し業務に反映させている。家族等の来訪時には気兼ねなく言ってもらえるように雰囲気づくりに努め、改善や結果については必ず報告する様にして信頼関係を築いている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が気づいた時に管理者に気軽に提案できる雰囲気を作っており、職員会議や年2回の個人面談の時に意見を聞く機会を作っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度により評価し、職員にもフィードバックしている。フィードバックの際に目標設定し、研修計画にも生かしている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には出来るだけ参加できるように勤務調整しており、外部研修についても出張扱いや有給利用が出来るようにしている。資格取得については法人の助成制度があり利用を勧めている。	法人内研修で食中毒の予防や感染症・汚物処理・虐待防止と口腔ケアなどいろいろな研修を行い、職員の質向上に向けて取り組んでいる。資格取得については勤務調整で対応したり、受験費用やテキスト代などの支給枠と加算手当を設け、職員のスキルアップに繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	酒田市介護サービス事業者連絡協議会に加入し、研修にも参加している。	市の連絡協議会に参加し、情報交換の場を通して他の事業所の取り組みを学び、介護技術の差が生じないよう質の向上に励んでいる。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との会話の機会を多く作り、互いに知り合うことで、落ち着いた生活が出来るように努めている。また、得た情報は職員間で共有し、介関係作りに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の時点で、家族が困っている事や入所に際しての希望は聞き取りを行っている。入所されてから落ち着かれるまでの間の変化をこまめに家族に伝えたり、場合によっては家族の力も借りながら、利用者が落ち着けるように協力し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーや家族と一緒に考え、最適な援助が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持ってもらい、互いに「ありがとう」と言い合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院介助を家族の役割として持ってもらい、普段の生活についても出来るだけ情報提供している。また、援助法の変更については家族の考えも聞きながら対応している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親せきの面会も受け入れ、関係が継続できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	非難されたり、指摘されたりすることが無いように、テーブルを挟んだ人間関係に注意し、心地良い人間関係が出来るように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々、退所された利用者や家族が面会に訪れる事もあり、地域の一員としての関係を継続している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を傾聴し、思いを汲んで対応している。	それぞれの持つ特性や趣味と嗜好などと暮らしてきた環境を把握し、思いやりを持って接している。利用者の言葉や言葉にしづらい思いには丁寧なアプローチで行動や表情から思いをくみ取り、穏やかに過ごすことができるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネージャーより情報を提供してもらっている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化について記録し、申し送り、職員一人一人が把握できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態を確認しながら職員同士話し合い作成している。	本人や家族の意向を確認し、モニタリングを通して職員会議の場で検討している。残存機能を生かしてその人らしく周囲と共に穏やかに生活ができるように、必要な支援を盛り込んで柔軟に作成されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化を介護記録に残し、職員間で情報を共有し、チームケアが出来るように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>通院の時に行きつけの喫茶店に行ったり、家族と一緒に外出や外泊をするなど、家族に協力してもらいながら実施している。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は継続しており、家族が通院介助を行っているが、体調などの情報提供を毎回行っている。</p>	<p>受診は家族等付き添いで継続されており医師へはバイタル等の記録を渡し、結果は看護師・職員間でお知らせ帳や申し送りノートを用いて共有している。状況によっては看護師の付き添いや往診もあり利用者の健康保持に努めている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常生活の中で状態確認を行い、変化等があった場合には看護師に報告し指示を受けている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>主治医を通してスムーズに入院できるようにしており、入院時には情報提供に努めている。退院についても、家族や地域連携室と連絡を取り合い、安全な生活が出来るように努めている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所契約時に施設の方針や看取り介護について説明し、必要に応じて家族との話し合いの場を作り、適切な環境で生活出来るように支援している。</p>	<p>入居時に重度化して来た時の介護について説明し、家族等の理解を得ている。状態に合わせて家族等と今後の方針について話し合いを重ね、利用者家族等の意向に沿って特別養護老人ホームや他機関への転移を含めた支援を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で定期的に急変時の対応について研修を実施しており、全職員が1回以上参加している。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上避難訓練を行ない、全職員が1回以上参加している。合同避難訓練では、他の事業所と協力しながら、避難訓練を実施している。	法人施設と合同で行う訓練のほか防災委員会で訓練を計画し、事業所独自で想定を変えて実施している。また、毎月設備や備蓄品の点検等を行い防災に対しての意識を高めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「職員行動のあり方 自主点検票」で年1回職員個々に自分の言動を確認している。また、随時職員会議で職員の言動について注意を促している。	毎日の会話の中から利用者の表情を観察し些細なことにも配慮しながら、優しい言葉で自尊心を傷つける事がないように接している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉に耳を傾けるように努めており、わかりやすい言葉で質問するなど、自己決定が出来るように支援している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	誘いや促しはしていますが、起床や就寝、食事の時間を個々のペースに合わせて調整している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者の意思を尊重し洋服を選んだり、外出時にはおしゃれが出来るように支援している。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けを一緒に行っている。また、食べ物の好き嫌いに関して代替えを準備している。	食事は毎食母体から配食を受け、ご飯を炊いて、炊き上がる匂いが食欲をそそり、利用者も出来る事を手伝っている。野菜の差し入れなどもあり事業所で調理して食卓をにぎわせている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、職員や看護師が把握できるようにしている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自主的に出来ない方については声掛けし、うがいや歯磨きを促している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔の把握に努めており、自主的に行動できない方に対しては、声掛けや誘導を行っている。	排泄の間隔をチェックしトイレでの自力排泄を促している。利用度の高いトイレには、暖簾を下げて夜間でもわかりやすくしておく、ドアが開いていても目隠しになるようにして羞恥心に配慮している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寝起きに冷たい水を飲んでもらったり、食物繊維の多い食事を提供している。また、体操や歩行訓練の機会を設けると共に、下剤を服用している方については服用時の支援を行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上入浴できるよう支援している。体調や気分に合わせて、入浴日の変更を行っている。	バイタルチェック、皮膚の状態などを確認しながら、利用者の好みの温度で入浴している。出来ないところや手の届かないところには手伝い、歌も出て楽しい時間を過ごし、湯上り時は全部着替えをしてさっぱり感を味わっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の時間を設けたり、個々に合わせた室温や明るさに調整して休んで頂けるようにしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と職員が共に個々の薬の処方を把握しており、変化については看護師と情報を共有し、適切な支援が出来ている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人に合った役割や余暇活動を行い、完成した作品を展示する等し楽しんでもらっている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	膝に痛みあるなど外出を拒まれる方が多く、季節毎の外出や時々買い物に時々行く程度である。	花見や祭り・紅葉狩りなど、年間を通して計画を立て、春は竹の子汁、秋は芋煮会を開き利用者と家族等・職員も一緒に和やかな時を過ごしている。利用者の希望で散歩がてらの買い物や足湯、寿司を食べに出かけるなど外気にふれることで英気を養っている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方はいないが、買い物に行った際は、預り金より出し利用者より支払ってもらっている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合には、電話をしたり手紙やはがきを出せるように支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、自分たちで作成した装飾や季節の花を飾り、季節感を感じられるようにしている。明るさや室温・湿度についても利用者の希望に合わせ、心地良く過ごせるように調整している。	一日の大半を過ごすホールには、季節が感じられるように利用者と一緒に作った装飾を施し、通路ごとに自分が写っている写真を貼り自分たちが行事へ参加した事がわかるようにしている。食席を自分の居場所として過ごし洗濯物たたみ等も手伝っている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや和室があり、個々で好きな場所で過ごして頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族には自由に持ち込んでも良いことを伝えており、テレビやテーブル・椅子を持ち込んで生活されている方もいる。また、自分で作った作品や写真を飾るようにしている。	馴染みの物を自由に持ち込み、写真や思い出の品を置いて自分らしい部屋づくりをしている。ベッドはセンサーが内蔵されており、寝具類はリースで入れ替えて清潔を保ち、自宅との違いを感じさせないような居室づくりが行われている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりにくいようなので、矢印を壁や廊下に貼り、一人でも行く事が出来るように工夫している。			